

## ポンド、利上げ期待が支えも上値重いか

- ◆ポンド、早期利上げ期待が支えとなるも上値は重いか
- ◆BOE がインフレ抑制のために利上げせざるを得ない状況かを見極め
- ◆加ドルは堅調か、原油の先高感が強い

### 予想レンジ

ポンド円 152.00-157.00 円

加ドル円 89.50-93.50 円

### 10月18日週の展望

ポンドの上値は重いか。イングランド銀行 (BOE) の早期利上げ期待が高まっているが、英成長鈍化への懸念で、ポンドの上値余地は限られそうだ。市場では BOE が 12 月にも利上げに踏み切るとの見方が強まったが、最近の指標では景気鈍化を裏付ける内容も確認されている。BOE は難しい舵取りを迫られているが、インフレ抑制のために利上げをせざるを得なくなる可能性もある。

ベイリー-BOE 総裁は、「インフレ率が予想よりさらに上昇する可能性が高まっている」との認識を示し、「高インフレが恒久的に根付くのを防ぐことが必要」と指摘した。サンダース英金融政策委員会 (MPC) 委員も、「金融政策で対応しなければインフレ高はさらに持続的なものになる恐れがある」との認識を示した。一方で、テンレイロ MPC 委員は「景気回復が予想以上に弱く、インフレ高進対応の利上げは自滅の恐れがある」と警告した。当面は英利上げ時期を見極める展開が続く。短期金融市場では 12 月に 0.25% の利上げを織り込む動きが強まっており、英 10 年債利回りは 2019 年 5 月以来の高い水準に上昇した。9 月の雇用者数は前月から 20.7 万人増、7-9 月の求人数は 110.2 万件と軒並み過去最高を記録し、人手不足が深刻化していることが示されている。労働市場の回復も、BOE の早期利上げ決断を強めそうだ。

一方で、欧州連合 (EU) によるサプライチェーンの混乱、エネルギー価格の高騰などが英経済のパフォーマンスにマイナスの影響を与える懸念が高まっている。8 月の英商品貿易収支は 149.27 億ポンドの赤字と赤字額は EU 離脱を控えて輸入が急増した昨年 12 月以来の大きさとなった。輸出が EU 向け、それ以外の地域向けとも落ち込んだ。また、8 月 GDP は前月比 +0.4% と 7 月のマイナス成長から回復するも、予想を下回った。9 月は燃料不足や原油価格の急騰が経済にさらなる悪影響を及ぼす可能性が高い。来週発表の 9 月の消費者物価指数 (CPI) や同小売売上高、10 月の製造業・サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値などの指標結果に注目。

加ドルは下値の堅い動きか。足もとで産油国通貨の加ドルは原油相場を睨んだ動きが続いており、原油高が引き続き加ドルの下支えとなる。供給逼迫懸念から、原油の先高感は根強い。ただ、原油価格が一段と急上昇して、インフレ高に伴う世界的な景気減速懸念が高まり、リスクオフの動きが強まれば、加ドルも売りが入りやすくなるだろう。日本と主要国との金融政策見通しの格差が鮮明になりつつあり、円安の流れが当面続く可能性が高く、加ドルは対円でも堅調地合いが続く。来週は加国内で 9 月の CPI や 8 月小売売上高などの発表が予定されている。

### 10月11日週の回顧

ポンドは英雇用データや GDP の結果への反応は限定的も、BOE の早期利上げ期待も支えに底堅い動きとなり、ポンドドルは 1.37 ドル前半まで上昇した。今週も円全面安の流れが続く中、ポンド円は 155 円後半まで強含んだ。原油高を支えとした加ドル買いが継続し、ドル/加ドルは 1.23 加ドル半ばまで加ドル高が進み、加ドル円は 2015 年 12 月以来の高値水準となる 92 円近辺まで上昇した。(了)